

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋中学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------|------------------|
| ○考える人になろう | ○心ゆたかな人になろう |
| ○たくましい人になろう | ○みんなのためにつくす人になろう |

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

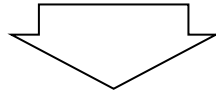
- 1 各教科の年間指導計画と評価計画の充実を図るとともに、適正な教育課程を実施する。
- 2 国語・数学・英語科で少人数、習熟度別指導等、個に応じた指導を充実させる。
- 3 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
- 4 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。
- 5 各種検定の取組やサブリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。

令和2年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章において、展開に即して趣旨を捉えたり、文学的文章において心情の変化を捉えたりすることに課題がある。 ・文法や語句、漢字に関する知識において、定着が不十分な生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて読みを形成する機会が少なかった。 ・文法や語句、漢字について練習的な活動が十分ではなかった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・関数や図形の領域に関して若干苦手とする傾向がある。 ・既習事項を使った活用する場面では、論理的に根拠を示しながら証明するのが苦手とする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でのグループ活動が少なかった。 ・関数や図形の活用した問題演習が足りなかった。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野において、具体的な歴史的事象についての知識の定着が不十分である。 ・歴史的事象について、地理的背景などと関連付けて理解することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について反復練習する機会が少なかった。 ・授業中に地図帳を活用する場面が少なかった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学に関する知識理解が不足している。 ・実験結果から予想されることなど、自分の考えを言葉で表現するとき、誰にでも伝わるように表現することに苦労している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解を定着させるための反復練習を行う機会が少なかった。 ・実験を行う機会が少なく、自分の考えを理解してもらえよう伝える機会が少なかった。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力サポートテストの結果は概ね良かった。 ・まとまった初見の文章を理解することを苦手とする傾向があった。 ・習得した知識を生かして表現につなげることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した文法、語句を活用して表現する機会が少なかった。 ・多岐にわたる内容を扱った英文を読む機会が不足している。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・運動習慣等の実態調査の「運動好き」の項目で、好き傾向の数値が東京都の平均より低い。（都83.7% > 本校80.7%） ・体力・運動能力テストで、長座体前屈、50m走において東京都の平均より高い。しかし、握力、上体起こし、反復横跳、持久力、立幅跳、ハンドボール投げにおいて東京都の平均より低い。特に持久力に関わる項目の数値が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の授業以外における、日常的な運動習慣が身に付いていない。 ・動きを持続する能力を高める運動を行う習慣、機会が少ない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>目標「基礎基本を確実に定着させる。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が85%以上となる。」</p> <p>令和2年度保護者学校評価アンケート ・「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。」 よくあてはまる43.2% あてはまる43.6% 計86.8% 前年度と同等を目指す。(目標85%)</p> <p>令和2年度生徒学校評価アンケート ・「授業の進み方はちょうどよいと思いますか。」 ちょうどよい48.0% まあまあよい38.8% 計86.8% 前年度と同等を目指す。(目標85%)</p> <p>・放課後や長期休業中に区中学校講師や学習指導サポーターを活用し、学習力サポートテストの復習プリントや東京ベーシックドリルを活用した補習教室を行う。</p>
②授業改善	<p>目標「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が90%以上となる。」</p> <p>令和2年度保護者学校評価アンケート ・「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 よくあてはまる26.6% あてはまる57.7% 計84.3% 前年度を上回るようにする。(目標85%)</p> <p>・「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 よくあてはまる29.4% あてはまる55.5% 計84.9% 前年度を上回るようにする。(目標85%)</p> <p>令和2年度生徒学校評価アンケート ・「授業規律を守り、落ち着いて授業を受けることができますか。」 よくできた74.5% まあまあできた23.5% 計98.0% 90%以上を継続する。</p>
③教員の指導力	<p>目標「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を行う。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>令和2年度保護者学校評価アンケート ・「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。」 よくあてはまる16.2% あてはまる51.1% 計67.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>・「学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。」 よくあてはまる10.2% あてはまる41.1% 計51.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>令和2年度生徒学校評価アンケート ・「授業の内容を理解し、達成感がありますか。」 よくできた28.6% まあまああった58.2% 計86.8% 前年度と同等を目指す。(目標85%)</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
④家庭との連携	<p>目標「自学・自習の学習習慣が身に付くように指導する。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>令和2年度保護者学校評価アンケート ・「サブノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」 よくあてはまる23.2% あてはまる49.1% 計72.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>・「生活と学習のサブノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」 よくあてはまる25.9% あてはまる52.6% 計78.5% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p> <p>令和2年度生徒学校評価アンケート ・「サブノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣を身に付けることができていますか。」 しっかり身に付いている31.6% 身に付いている40.8% 計72.4% 前年度を上回るようにする。(目標80%)</p>
⑤体力向上	<p>目標「運動意欲を高め、生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力を身につけられる指導をする。」</p> <p>指標①「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を超える。」 令和2年度保護者学校評価アンケート ・「学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。」 十分に達している33.7% 達成している52.4% 計86.1% 前年度を上回るようにする。(目標90%以上)</p> <p>指標②「今年度の体力・運動能力テストで東京都の平均値を越える項目を増やす。」 ・「握力」「上体起こし」について、東京都の平均値を越える。 ・「反復横跳」「ハンドボール投げ」について、東京都の平均値とほぼ等しくなるようにする。</p>



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	各教科で指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画を作成する。 その中で ①オリンピック・パラリンピック教育 ②表現力の育成 ③他教科等 に関わりのある学習内容を明確にする。 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、生徒個々の学力に応じた指導ができるように計画、準備を行い、新学期から実践する。
取組Ⅱ	生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を授業及び行事や学年・学級の活動に意図的に設定し、言語活動の充実を図る。
取組Ⅲ	生徒全員が英語、漢字、数学検定へ挑戦する場を設定し、受検者全員が合格できるように、検定前に放課後などを利用した補習を行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業 を目指す。
取組Ⅱ	「主体的に取り組み、考えを深め、表現する生徒の育成～問題解決型・言語活動の充実を通して～」を研究主題に校内研究を行う。特にSDG'sの教育視点からの教科横断的な授業の実践を行う。
取組Ⅲ	夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期からわかりやすく工夫された授業となるように改善する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
取組Ⅱ	生徒に信頼される授業力を身につけるために、ICT機器を活用し、生徒自身が興味関心をもつ教材・題材の開発、社会や生活に繋がり、広がる授業を実践する。
取組Ⅲ	生徒の反応や学習状況に応じながら計画に沿って授業を実践する力を高めていく。(発問や指示・板書の工夫、教材・教具の活用等) 夏季休業中、冬季休業中に、前学期の観点別評価を参考に、各教科で授業の振り返りを行い、新学期から「分かった」「できた」と実感できる授業となるように改善する。

【目標達成のための具体的な取組内容】

④家庭との連携	
取組Ⅰ	「生活と学習のサブノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。毎日の記入と提出を生徒に促し、三者面談でサブノートの記録などをもとに家庭学習について話をし、定着を促す。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。
取組Ⅲ	定期考査に向けた学習計画表、考査後に家庭向けに配布する学習の記録をもとに、三者面談などの機会を利用し、家庭と連携した自学・自習の指導を行う。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	生徒が自ら体を動かしたくなるような企画や授業を行い、楽しみながら継続して体を動かせるようにする。 ①ダブルダッチ体験(筋力、握力、平衡性など) ②ICTの活用(自分の動きの確認、映像をもとに教え合うなど)
取組Ⅱ	毎時間の授業でコーディネーショントレーニングを取り入れる。体力テストを実施し、生徒一人一人が自身の健康や体力を把握するとともに、健康の保持増進するための運動を自ら実施できるようにする。
取組Ⅲ	保健体育の授業に外部講師を招へいし、専門的な指導を受けることで、生徒の学習意欲の向上や安全に配慮した指導を行う。